

全農機商報

昭和38年8月20日第三種郵便物認可

第
740
号

主な記事

- ・23年産米生産費高騰 2面
- ・24年産米需要上回る見通し 2面
- ・耕地面積減少に歯止めかからず 3面
- ・猛暑に対応急務の日本農業 4-5面

2030年 4品目の経営体数と耕作面積の見通し

		経営体数 (万)			耕作面積 (ha)		
		2030年	2020年	増減 (%)	2030年	2020年	増減 (%)
土地利用型作物 (米・麦・大豆など)	合計	27.7	59.8	▲53.7%	142万	216万	▲34.3%
	・法人経営体	2.1	1.6	▲31.3%			
	・主業経営体	3.6	8.2	▲56.1%			
	・準主業・副業的経営体	22	50	▲56.0%			
露地野菜	合計	6.2	10.4	▲40.4%	18万	26万	▲30.7%
	・法人経営体	0.4	0.3	▲0.3%			
	・主業経営体	1.8	3.7	▲51.4%			
	・準主業・副業的経営体	4	6.4	▲37.5%			
施設野菜	合計	4.5	6.1	▲26.2%	2.3万	3.2万	▲28.1%
	・法人経営体	0.3	0.2	▲50.0%			
	・主業経営体	1.7	3.5	▲51.4%			
	・準主業・副業的経営体	2.5	2.4	▲0.04%			
果樹	合計	6.4	12.9	▲50.4%	11万	20万	▲45.0%
	・法人経営体	0.2	0.2	—			
	・主業経営体	1.9	3.9	▲51.3%			
	・準主業・副業的経営体	4.3	8.8	▲51.1%			

農林水産省は11月6日、食料・農業・農村政策審議会企画部会において、農業者と農地の将来見通しを示した。農業経営体は2020年の108万から30年に54万へと半減し、耕地面積は規模拡大がなければ20年に比べて92万畧の農地が耕作されなくなる恐れがあると試算した。同省は、規模拡大する経営体へ農地バンクを通じて農地の集約化を推し進める必要があるとしている。

2030年に20年比で経営体数半減・耕地面積は92万畧減

農業者と農地の将来見通し 農水省

進んでいなため、規模拡大が難しくなっている。

▽土地利用型作物(米・麦・大豆など)

耕作面積を品目別にみると、最も減少面積が多いのは土地利用型作物で74万畧。20年の約3分の1に相当する面積が耕作されなくなるとおそれがある。

試算は、農業者を個人経営体と法人経営体および土地利用型作物(米、麦、大豆など)、露地野菜、施設野菜、果樹の4品目に分け、近年の増減ペースや年齢構成を基に行った。

▽野菜は露地・施設とも減少も生産減少幅は小さい見込み

野菜の減少面積は、露地が8万畧、施設が0.9万畧。ただ、同省は経営体の全体数は減るが、法人が1000経営体増えると試算しており、また、年に複数回生産できることから、生産減少の影響は比較的少なく、新規参入もしやすいとみている。ただ、機械化が

▽果樹は面積半減 果樹は20万畧から約半分に当たる9万畧減少し11万畧となる。中山間地域での栽培が多く、また、収穫など労働ピークが集中することから労働力の確保が課題となる。

同省は、米や果樹など土地利用型作物は中小・零細農家の生産に占める割合が高く、担い手への農地集約が遅れており、今後、農業者の高齢化に伴い耕作されなくなる農地が多く発生する恐れが高いとし、土地利用型作物では農地の集約化など、露地・施設野菜や果樹では作業の機械化などを課題に挙げた。

▽2030年の経営体数は54万・個人経営体数が大幅に減少

30年の経営体数は20年の108万から半減し54万。法人経営体数は1万(25%)増えて5万となるが、個人経営体は、主業経営体が23万から11万(52.2%減)、準主業・副業的経営体が81万から38万(53.1%減)で、あわせて55万(53%)減少し49万となる。

For Earth, For Life
Kubota

続ける農業を明るく照らすトラクタ



TERAST

ST25 (PC) (25PS) ST31 (H) (PC) (31PS)



TERAST
WEBサイト

株式会社クボタ

23年産米 肥料費28%増

生産費8年ぶりに10㍗13万円台 作付け規模3.0㍗未満層は赤字に

農林水産省が10月30日に公表した2023年産の米生産費調査結果によると、個別経営体の生産費は、肥料費の高騰などで10㍗当りの米生産費が前年より3%上昇し13万2863円となった。10㍗当りの生産費が13万円台となったのは2015年以来8年ぶりとなる。

▽個別経営体の米生産費

23年産米の全算入生産費は10㍗当たり前年比3%増の13万2863円。60㍗当りの全算入生産費は1万5948円。前年比4.4%上昇した。

10㍗当たり生産費の内訳をみると、生産費の7割を占める物財費が4.0%上昇した。このうち肥料費は9.8%増の1万2256円。28.1%と高騰した。他、労働費が2.8%、農業薬剤費が

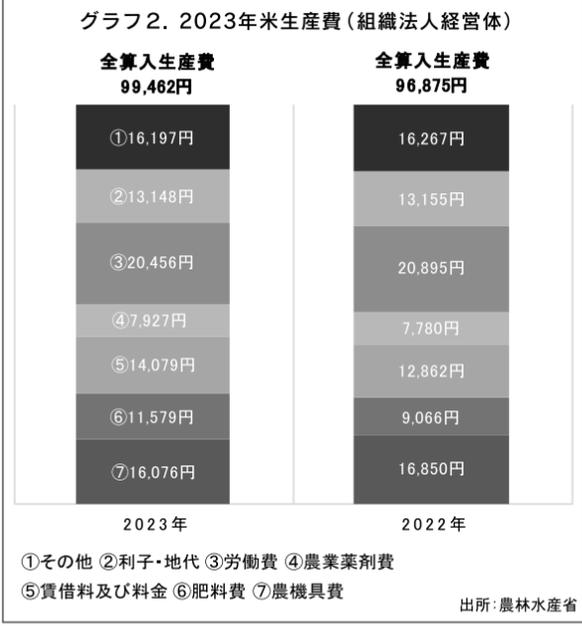
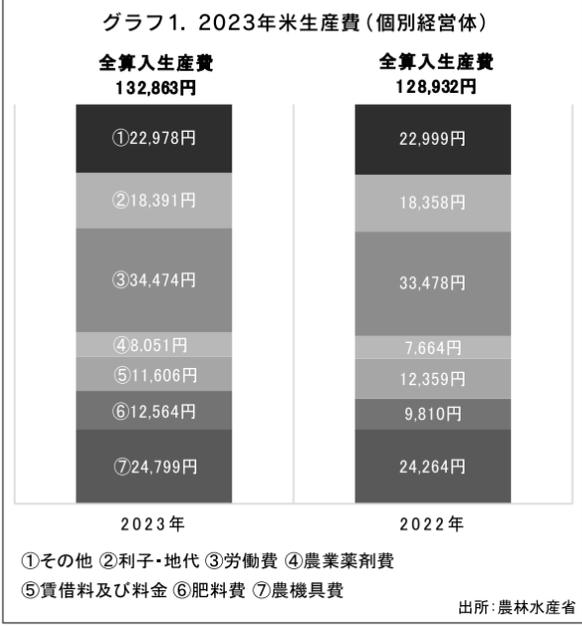
一方、10㍗当りの労働時間は1.1%増の21.86時間。収量減、労働時間増になったことが60㍗当りの生産費増につながった。

一方、23年産米の相対引価格の年産平均価格は60㍗1万5314円。生産費はこれを上回っており、作付け規模が「3.0㍗〜5.0㍗」層は生産費が相対引価格を下回った。

▽組織法人経営体の米生産費

23年産米の相対引の年産平均価格は、21年産および22年産より上昇したが、それでも全国平均では生産費のほうが価格を上回った。

一方、組織法人経営体は、10㍗当りの全算入生産費が前年産より2.7%上昇し9万9462円。肥料費は個別経営体同様、27%



西友が11月14日から、関東地方の138店舗で台湾産米の販売を開始した。販売するのは台湾産精米、日本産袋詰めた「むすびの郷」(5kg)で、税込2977円。国産米と同じ短粒種のジャポニカ米で、炊飯方法も同じ。同等の国産米より2割ほど安く、風味や食感も近いそうだ。

海外産ジャポニカ米

ジャポニカ米は日本・朝鮮半島・中国東北部・ヨーロッパの一部などで主に作られていて、短く円形に近い形状と、炊くと粘り気が出るとい特徴がある。

インドイカ米は中国の中南部・タイ・ベトナム・インド・マレーシア・パングラデシユ・フィリピン・アメリカ南部など広い地域で作られており、細長い形状と、炊くとパサ

パサしてピラフやカレーに合う特徴がある。最後にジャバニカ米。生産量が少なく、ジャワ島やアジアの熱帯地域、中南米などの一部で作られている。幅が広く大粒な形状とあさりして粘りのある味が特徴で、昔は泡盛の原料などに使われてきた。

この中で、世界でも多く作られているのはインドイカ米。全品種の生産量の8割以上を占めている。一方、日本で主流のジャポニカ米の生産量は、実は2割程度に過ぎない。

を扱うのは珍しい。国内では8月以降、米の需要が増し、スーパーなどで一時、品薄になった。価格は今でも高く、店頭価格は5kg米で昨年より1000円以上値上がりしている。

日本ではジャポニカ米が主流だが、世界で栽培されているお米は、大きく分けてジャポニカ米・インドイカ米・ジャバニカ米の3種類がある。

2024年産米生産量 需要上回る見通し

農水省

農林水産省は10月30日、米の需給見通しを公表した。2024年産主食用米の生産量は前年産661万トから22万トン増の683万トとなり、来年6月までの1年間の需要量の674万トを上回る見込みとなった。民間在庫も今年6月の153万トから162万トに回復する見込み。

同省は今後の米の動向について、直近は米の価格が麺類やパンと比べて値上げ幅が小さかったことや、インバウンドの急増で一時的に需要が伸びる状態になったが、長期的な減少傾向は変わらないとした。

25年の生産量は24年産と同じく683万トとなる見通し。25年7月から1年間の需要量は11万ト減の663万トと予測した。民間在庫量は今年6月126万ト、前年産比22万ト増の見込み。

農林水産省は10月11日、24年産水稲の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量を取りまとめた発表をした。

◆24年産米の1等比率77.34%◆
農林水産省は10月29日、2024年産米の農産物検査結果(速報値、24年9月30日現在)を取りまとめた発表をした。

9月30日現在の24年産における水稲のうち玄米の1等比率は77.3%で、前年同期に比べ17.7ポイント増加した。また、2等比率は18.9%で同12.2

2024年9月に発生した 農作業死傷事故は44件

9月は15件の死亡事故を含む44件の死傷事故が報告された。死亡事故のうちコンバインによる事故が7件と約半数を占め、事故原因は転落・転倒や降車して自らが轢かれたり、補助者を轢いたことによるものだった。

乗用型の農業機械は、路肩や補助者など周囲の安全を視認しづらい場合があり、今回のような重大な事故の要因の一つとなっている。

▽12月のワンポイント例年、農閑期の12月は事故が減少する時期だが、農用運搬車やチェーンソーは比較的高い頻度で事故が発生している。農用運搬車は転落・転倒防止のための走行路の確認、チェーンソーは保護具の着用を、特に徹底しよう。

◆主食用米の作付面積は126万㍏、収穫量は前年産比22万ト増の見込み◆
農林水産省は10月11日、24年産水稲の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量を取りまとめた発表をした。

24年産水稲の作付面積は151万4000㍏で、前年産に比べ1万7000㍏減少したが、主食用米の作付面積は125万9000㍏で、前年産に比べて1万7000㍏増加した。

24年耕地面積 前年から2.5万ヘクタール減少

農地減少に歯止めかからず

農林水産省が7月15日現在の2024年耕地面積について公表した。耕地面積は427万2000ヘクタールで、荒廃農地からの再生等による増加があったものの、耕地の荒廃、転用等による減少が多く、前年に比べて2万5000ヘクタール(0.6%)減少した。17年以降、改廃が年3万ヘクタール以上推移しており、農地減少に歯止めがかからない状況が続いている。

農水省作物統計調査

2024年7月15日現在の耕地面積は427万2000ヘクタールで、荒廃農地の再生など増加があったものの、改廃面積の割合が多く、前年から2万5000ヘクタール減少した。

1961年(昭和36年)をピークに減少が続いており、1956年(昭和31年)の田畑計601.2万ヘクタール(田322.0万ヘクタール・畑279.2万ヘクタール)から、24年(2024年)の田畑計は576.7万ヘクタール(田322.0万ヘクタール・畑254.7万ヘクタール)と、24年間で24万5000ヘクタール減少した。

見ると、田は東北が最も多く同3700ヘクタール(0.6%)減、次いで関東・東山2000ヘクタール(0.5%)減、九州1900ヘクタール(0.6%)減、近畿1700ヘクタール(1.0%)減など。畑は九州が最も多く2000ヘクタール(1.0%)減、以降、北海道1800ヘクタール(0.2%)減、

また、耕地の主な増減要因別面積推移をみると、改廃(田畑が他の地目へ転換し、作物栽培が困難になること)が3万5000ヘクタール(うち荒廃農地1万3920ヘクタール)に対して、拡張は9630ヘクタールにとどまった。2017以降、年3万ヘクタール以上の改廃が続く、農地の減少に歯止めがかかっていない。

なお、耕地率(全土

◆23年度の農地集積率は6割

耕作農地の減少が年3万ヘクタール規模で推移する中、2023年度の担い手への農地集積率は前年度から0.9%上昇し60.4%。14年の農地バンク(農地中間管理機構)創設以降、集積率は毎年伸び続けているが、近年はペースが鈍化している。

◆23年度の農地集積率は6割

耕作農地の減少が年3万ヘクタール規模で推移する中、2023年度の担い手への農地集積率は前年度から0.9%上昇し60.4%。14年の農地バンク(農地中間管理機構)創設以降、集積率は毎年伸び続けているが、近年はペースが鈍化している。

◆23年作付け延べ面積は過去最少

農林水産省調べによると、2023年の全国の田畑計の農作物作付け延べ面積は391万2000ヘクタールで、前年に比べて0.9%減少し、東日本大震災が起きた2011年に並ぶ、1955年以降で過去最少となった。作付け延べ面積の減少は39年連続となる。また、田畑計の耕地利用率は91.0%で前年比0.3ポイント低下し、作付け延べ面積同様、過去最低となった。

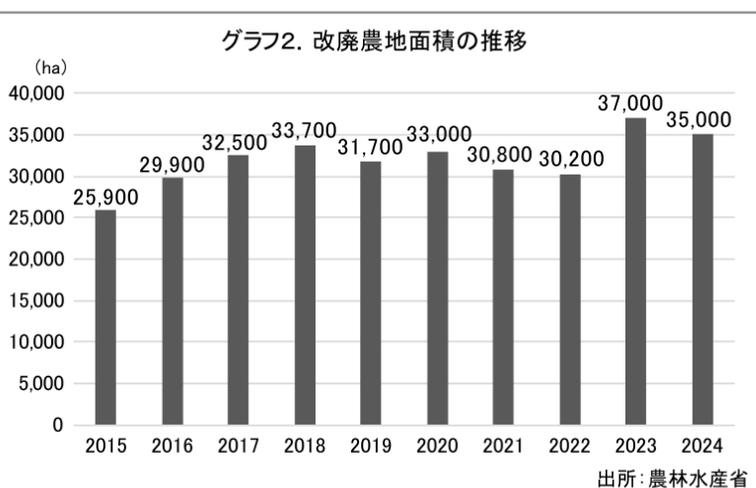
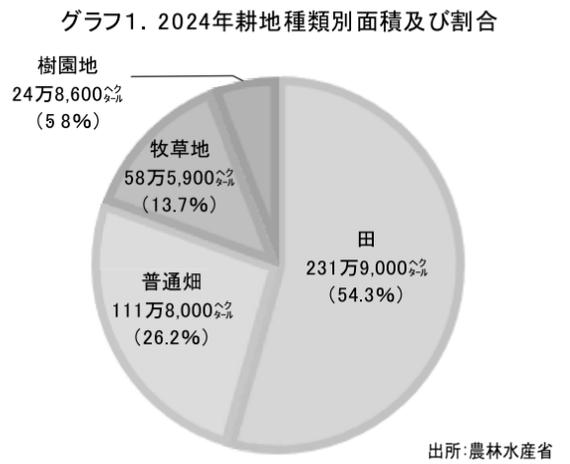
田の作付け延べ面積は217万5000ヘクタールで同1%減少し、田の耕地利用率は93.1%で同0.1%増加。畑の作付け延べ面積は173万7000ヘクタールで同1%減少し、畑の耕地利用率は88.5%で同0.7ポイント低下した。

作付け延べ面積を都道府県別にみると、44都道府県が前年を下回り、前年を上回ったのは栃木県のみ、前年横ばい(富山県と三重県)の2県のみだった。作目別では、水稲(実用)が134万4000ヘクタール(占有率34.5%)、前年比1万1000ヘクタール(0.1%)減少した。次いで、麦類(実用)29万5700ヘクタール(同7.6%)、同5100ヘクタール(同1.9%)増、大豆(乾燥子実)15万4700ヘクタール(同4%)、同3100ヘクタール(同2.0%)増、そば(乾燥子実)6万7100ヘクタール(同1.7%)、同1500ヘクタール(同2.2%)増、なたね(子実)1万7400ヘクタール(同0.4%)増、そのほか野菜、飼料作物等)204万8000ヘクタール(同52%)、同3万5000ヘクタール減少した。

米が前年から減った一方、麦と大豆は増えており、作付け転換が進んでいることがうかがえる。

また、耕地利用率は佐賀県の133.4%を筆頭に、福岡県、滋賀県、福井県、宮崎県の5県が100%を超えた一方で、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県が利用率ワースト5県となった。

同省は、30年度に作付け延べ面積を431万ヘクタール、耕地利用率を104%にする目標を掲げているが、23年時点で面積は40万ヘクタール、利用率は13ポイント下回っており、目標と大きな開きがある。



2023年の耕地利用率上位・下位5県

順位	道府県	耕地利用率
1位	佐賀県	133.3%
2位	福岡県	114.9%
3位	滋賀県	103.6%
4位	福井県	103.5%
5位	宮崎県	102.8%
43位	岡山県	77.4%
44位	島根県	76.5%
45位	鳥取県	76.4%
46位	広島県	74.7%
47位	山口県	71.8%

(出所:農林水産省)

また、耕地利用率は佐賀県の133.4%を筆頭に、福岡県、滋賀県、福井県、宮崎県の5県が100%を超えた一方で、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県が利用率ワースト5県となった。

同省は、30年度に作付け延べ面積を431万ヘクタール、耕地利用率を104%にする目標を掲げているが、23年時点で面積は40万ヘクタール、利用率は13ポイント下回っており、目標と大きな開きがある。

食と農と大地のソリューションカンパニー ISEKI

追求された作業へのゆとり、フロンティアマスター始動。

FRONTIER MASTER

FM468(4条刈 68.0PS)
FM475(4条刈 74.8PS)
FM575(5条刈 74.8PS)

ISEKI 井関農機株式会社

記録的猛暑で変わる日本農業

米は高温耐性品種の開発進む

想定越えの温暖化で栽培地域に変化

温暖化で世界の農業労働力激減の恐れ

2024年の日本の平均気温は1989年の統計開始以来、昨年に並び過去最高となり、7月も最高気温の記録を更新した。こうした状況から、農業現場では変化が起きている。

2024年の日本の平均気温は1989年の統計開始以来、昨年に並び過去最高となり、7月も最高気温の記録を更新した。こうした状況から、農業現場では変化が起きている。

水稲では、高温に強い品種を開発・栽培。リンゴの最大産地である青森では、リンゴから桃の栽培に転換する農家が増えている。地球沸騰化時代に突入し、今後も猛暑を

超えて酷暑が見込まれる中、日本農業は転換期を迎えている。温暖化対策をしないまま21世紀末を迎えると、世界の平均気温は3〜4度上昇し、その結果、次のようなことが起きる可能性が予想されている。

- ・全国で大豆の収量が6〜10%減収
- ・北海道がリンゴ栽培の適地になる
- ・東北地方南の沿岸部がミカンの適地になる

将来に向かつての問題点が指摘されている。農業生産は全体的に向上してきたが、過去50年間については、気候変動によってその伸び率は世界全体で鈍化しており、さらに、以前の報告書に比べて、人間が引き起こした気候変動が自然生態系、食料、水資源、健康に与える影響がより一層

全国で1割以上の鶏肉農家で生産量が15%以上低下する

将来に向かつての問題点が指摘されている。農業生産は全体的に向上してきたが、過去50年間については、気候変動によってその伸び率は世界全体で鈍化しており、さらに、以前の報告書に比べて、人間が引き起こした気候変動が自然生態系、食料、水資源、健康に与える影響がより一層

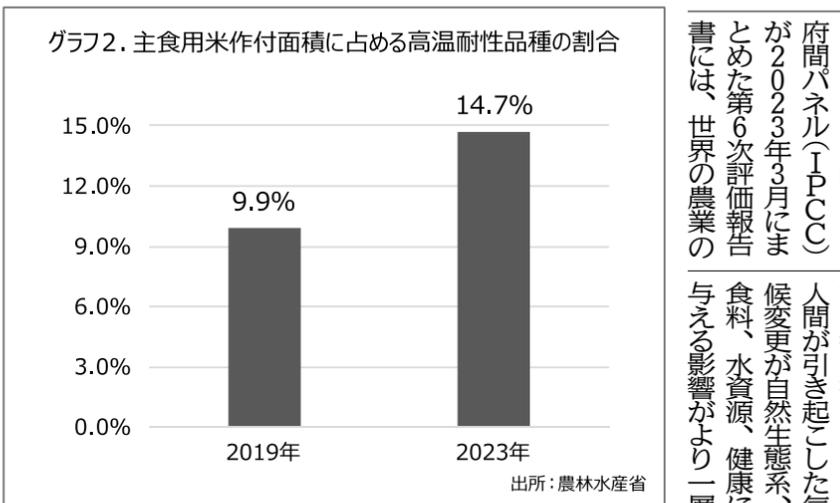
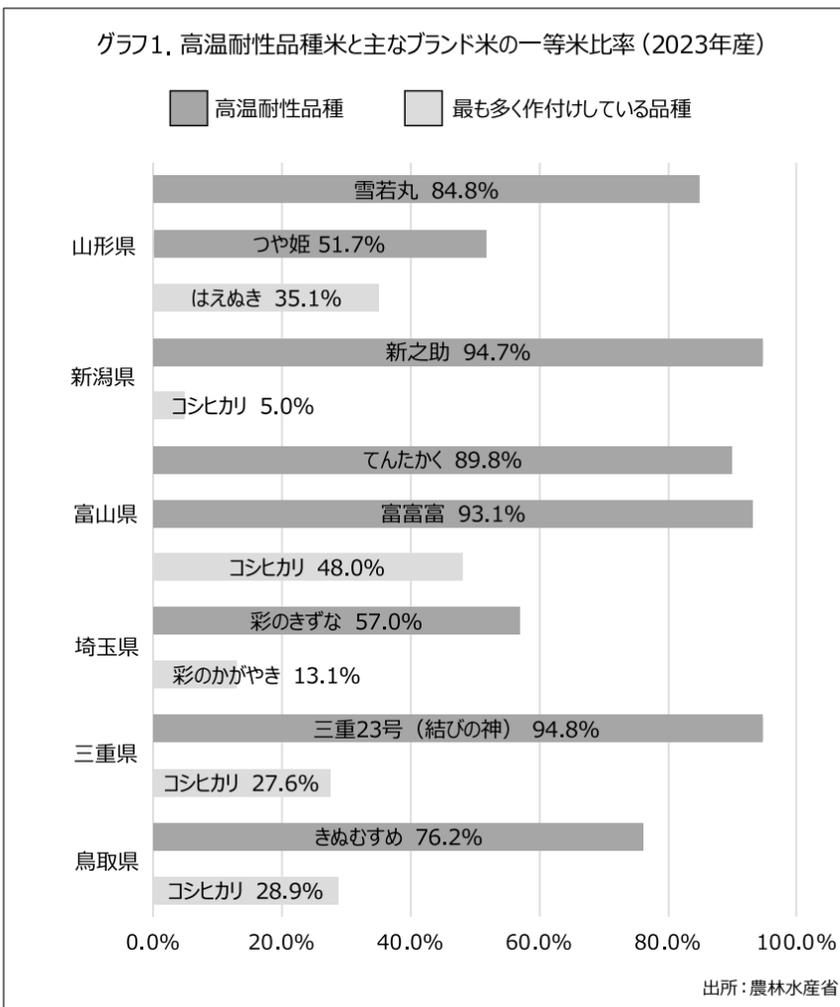
は高温障害による白米熟粒が増加した。今の品種のままでは、40年代には白米熟粒がさらに増加し、農家の経済的損失が拡大すると懸念されている。

果樹への影響については、高温に伴い、栽培地域が北上する。リンゴの栽培北限は札幌辺りまでだが、60年には北海道全域で栽培が可能になり、逆に、現在は産地である東北地方や長野県の平野部が適地よりも高温になり、栽培範囲が狭まる。

果樹は木を育て実がなるまで数年かかるため、別な作物への切り替えは難しく、温暖化への対応はハードルが高い。

畜産は高温が続く夏の時期に家畜の食欲が減り、乳用牛の乳量や品質がさらに低下する。また、肉用牛や豚、肉用鶏の生育や肉質が悪くなる。この傾向はすでに昨夏から出始めている。

野菜の将来予測
葉物野菜や根菜類は栽培時期をずらすことで栽培の継続が可能な場合も多いことから、比較的影響は小さいと予測されている。

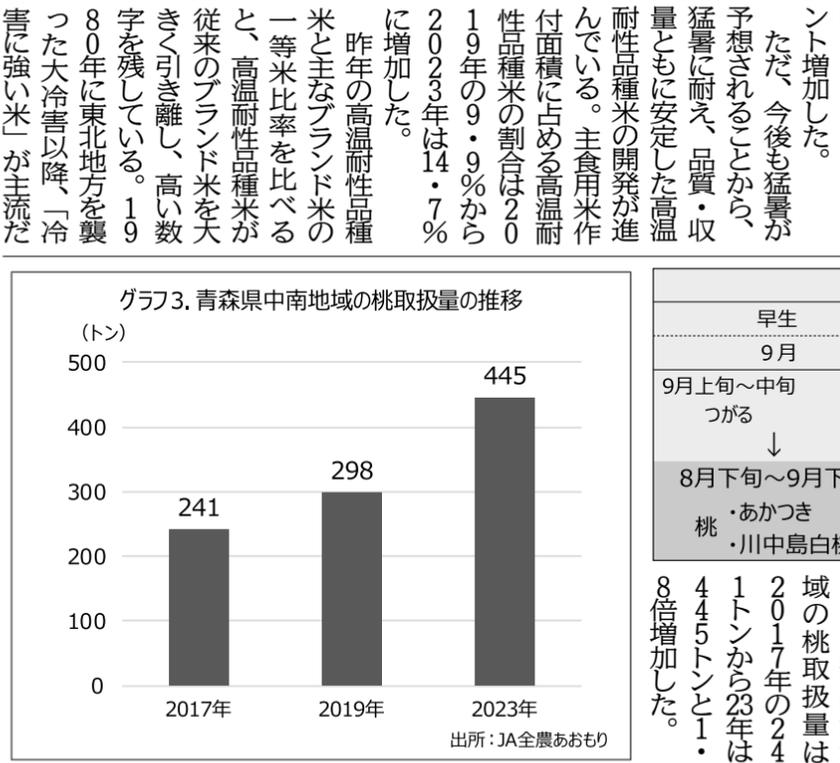


各地で進む高温への対応

高温に強い米への転換が増加
予想を上回るスピードで温暖化が進み、米の品質低下を危惧する声が高まっている。米の最大産地である新潟県では昨年、主力品種の「コシヒカリ」の一等米比率が例年の8割近くから5%にまで減少した。こうした状況を受け、今年の水の管理をこれまで以上に徹底するなどした成果が実を結び、昨年に続き平均気温が過去最高となった中でも、9月30日現在の24年産水稲うるち玄米の1等比率は77.3%となり、前年同期に比べ17.7ポイント増加した。

ただ、今後も猛暑が予想されることから、猛暑に耐え、品質・収量ともに安定した高温耐性品種米の開発が進んでいる。主食用米作付面積に占める高温耐性品種米の割合は2019年の9.9%から2023年は14.7%に増加した。

昨年の高温耐性品種米と主なブランド米の一等米比率を比べると、高温耐性品種米が従来のブランド米を大きく引き離し、高い数字を残している。1980年に東北地方を襲った大冷害以降、「冷害に強い米」が主流だ



早生	中生	晩生
9月	10月	11月
9月上旬~中旬 つがる	10月中旬~下旬 ジョナゴールド	11月上旬 ふじ
8月下旬~9月下旬 ・あかつき ・川中島白桃		

青森県で「桃」への転作が増加
青森県は全国のリンゴ生産量の約6割を占めるが、近年、早生種のリンゴ「つがる」から

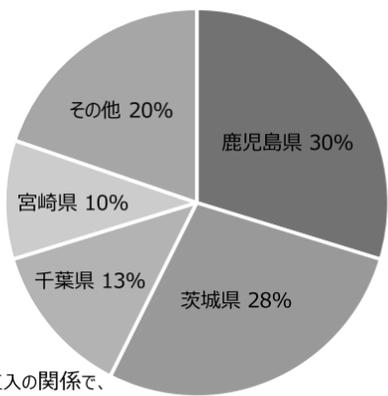
「つがる」に代わり、同時期に収穫できニーズも高い「あかつき」や「川中島白桃」など桃への関心が高まっており、JA全農あおもりによると、青森県中南地域の桃取扱量は2017年の241トンから23年は445トンと1.8倍増加した。

気候変動が農業生産者の生活を激変させている。予測できない天候のパターン、栽培時期の短期化、干ばつ、極端な気温、病害虫と疫病の発生増加などが、世界中の小規模な農業生産者にとって深刻な問題となっている。特に、自然資源への依存度が比較的高い熱帯地域は影響が大きい。

気候変動が世界の農業生産に与えた影響

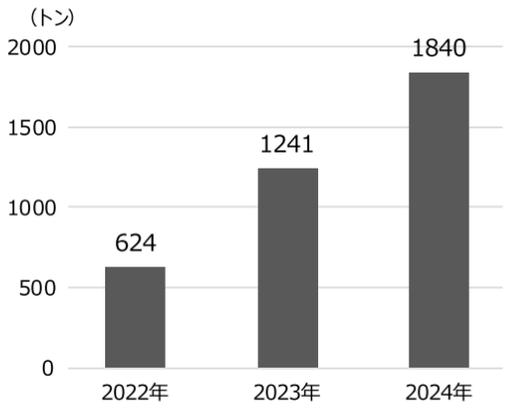
気候変動によって、品質低下や収穫量減少が見られる農作物は70品目以上に上る。特にコムギ、ブドウ、ナシ、トマト、ミカンなどが影響を受けており、高温・集中豪雨、降水量の増加、干ばつなどが具体的な影響として挙げられている。また、過去30年間(1981-2010年)で、温暖化による主要穀物の世界の平均収量の低下は、トウモロコシ4.1%、コムギ1.8%、ダイズ4.5%と推計され、生産被害額の推計は年間424億ドル(トウモロコシ223億ドル、コムギ136億ドル、ダイズ65億ドル)だった。

グラフ4. 2023年度サツマイモの都道府県別収穫量割合



※四捨五入の関係で、合計は100にならない
出所：農林水産省

グラフ5. 北海道のサツマイモの生産量の推移



出所：ホクレン・JA調べ

▽北海道でサツマイモの栽培拡大
サツマイモはメキシコを中心とした熱帯地域が原産地のため寒さに弱く、国内では福島県が商業栽培の北限とされてきた。しかし、温暖化により栽培可能地域が北上し、北海道でもサツマイモの商業栽培が可能となっている。近年では輸出を含め国内外での需要増から、将来性がある作物として力を入れている。

▽道南と道央でシルクスイートやべにはるかなどを栽培しており、北海道のサツマイモの生産量は22年の624トンから24年は1840トンと、わずか2年で3倍に増加した。

▽岐阜ではアボカドを試験的に栽培
岐阜県農業技術センターでは2019年から亜熱帯作物であるアボカドの試験栽培を始めている。アボカドは愛媛県や和歌山県で10年ほど前から栽培されているが、急速な温暖化から、岐阜県も最低気温がマイナス4〜6度で生育できる耐寒性の高い品種の栽培を始めた。

▽東京ではパッションフルーツ
パッションフルーツはブラジルをはじめ中南米など亜熱帯地域が産地だが、東京都八王子市の生産者グループが2013年から栽培を続けている。総収穫量は4トンほど。ただ、近年の暑さは亜熱帯地域が産地のパッションフルーツでも想定を超えており、35度が続きと花芽が落ちる被害が出ている。

◇地球温暖化で世界の農業労働力5000万人分が喪失
IPCCが刊行した最新の報告書は、「適応の限界」にも焦点を当てている。特に開発途上国は適応策の実施が不十分で、適応の限界に達する可能性が高いと強い懸念が示されている。

適応は作物だけではなく、作物を育てる農業従事者の問題でもある。国際労働機関(ILO)は、地球温暖化による熱ストレスの増加がもたらす生産性の低下が2030年までに8000万人分の雇用喪失(フルタイム労働換算)になると予想。そのうち、最も大きな影響を受けるのが「農業の働き手」で、約5000万人分の労働時間が減少するとの試算を出している。

特に、日本は年平均気温の上昇が世界平均より早く進行しており、日本近海の平均海面水温は世界平均の2倍を超える割合で上昇していることから、温暖化対策の失敗は致命傷になり得る。

農業従事者数が減少の一途を辿る中、食料安全保障・食料自給率アップに向け、気候変動への対応が大きな鍵を握ることとなる。

8月も西日本を中心に顕著な高温が続き、全国アメダス地点で観測された猛暑日地点数の積算は、2010年以降で最も多かった昨年を大幅に上回った。

6月中旬以降、全国的に気温の高い状態が続き、7月は全国で記録的な高温となった。7月29日には栃木県佐野市で今年全国最高の41.0度を観測し、これまで日本で最も暑かった記録の41.1度に次いで日本国内歴代3番目の暑さを記録した。

夏に並び観測史上1位の高温となった。顕著な高温は日本だけでなく世界規模で起きており、7月22日には世界の日平均気温が1940年の観測開始以降で最高となった。

全国農業機械商業協同組合連合会 会員さま専用プラン(集団扱制度)に

統合賠償責任保険

ポシサポが加わります!

施設の施錠を忘れ、修理で預かっていた農機具を盗難されてしまった

農作業を請け負った先で借りていた農機具をぶつけて壊してしまった

トラブル対策、万全ですか?

ドローンで農薬を散布中、操縦を誤り電線を切断してしまった

事故の際、自身で相手方と交渉しなければならなくなった

お見積りをご依頼ください!

補償見直し後の保険料節減例

※ ご契約の補償内容によっては、割引が適用されなかったり割引率が異なったりする場合がございます。

見直し前保険料 約25万円

見直し後保険料 約20万円

さらに 一時払なら5%の割引が適用!

保険料 約19万円

年間売上高・事業収入等が1億円以下の事業者さまの場合、事故の際、相手方との交渉は日新火災が行います。

日新火災海上保険株式会社

事故のご連絡 自動車 0120-25-7474 各種お問合せ先

日新火災事故受付センター 自動車以外 0120-232-233

24時間・365日

保険のご相談 日新火災 テレフォンサービスセンター

自動車保険 0120-616-898 (平日) 9:00~18:00

火災保険 0120-156-932 (土日祝日年末年始)

その他の保険 0120-718-268 9:00~17:00

https://www.nisshinfire.co.jp/contact

代理店・営業担当 ●安心のトータルライフプランをお手伝い。お気軽にご用命ください。

マーケット開発部 戦略マーケットグループ

東京都墨田区太平4-1-3オリナスタワー16F

TEL 03-6705-2436 FAX 03-5619-0066

集団扱制度の対象となる契約者は、全国農業機械商業協同組合連合会の会員企業さま・会員企業さまの役員や従業員の皆さまに限り、保険期間中に契約者の要件を満たさなくなった場合は、直ちに取扱代理店または日新火災にお申し出ください。

購買情報

ヤマト自動車

KYOCERA 充電式剪定ばさみ(電動ばさみ) DSH1120L2

果樹・樹木の剪定 剪定枝の処分に

1充電当たりの作業量(目安)(周囲温度20℃)
約2,200カット※1

(米松φ15mm切断の場合) 開口幅25mm

※1 電池容量および作業環境、ブレードの切れ具合などにより作業量は異なります。

軽量 **0.9kg** (電池パック含む)

最大切断枝径※2 **25mm**

クラス最速 切断速度0.3秒
スイッチとブレードが連動
手ばさみと同じスピード感で切断

■ 枝径に合わせてブレード開口角度を2段階切換
全開(開口幅25mm)、半開(開口幅18mm)

■ 作業中に便利なホルスター付
持ち運びに便利なホルスター付きです。

10.8v Li-ion 2,500mAh 電池パック 2個付

BL MOTOR

※2 最大切断枝径は、樹木の種類やブレード(刃)の状態などにより変わる場合があります。 ※3 本体のみ仕様には、電池パック・充電器は付属していません。

ひとを考えて、うまれたツール。

クラス最速 スイッチとブレードが連動
切断速度0.3秒 手ばさみと同じスピード感で切断

■ 枝径に合わせてブレード開口角度を2段階切換
ブレードの開口角度は剪定する枝径に合わせて、全開(開口幅25mm)と半開(開口幅18mm)の2段階で設定できます。開口角度の変更はスイッチを2秒引くだけの簡単操作で、モニターで状態を確認できます。

開口幅 18mm → スイッチを2秒引いて切換 → 開口幅 25mm

■ ON/OFF、開閉パターンは音でお知らせ
電源のON/OFFや開口幅の設定は音でお知らせ。モニターを確認できないときに便利です。

■ 作業中に便利なホルスター付
持ち運びに便利なホルスター付きです。

最大切断枝径 25mm
軽量 0.9kg

10.8v Li-ion
BL MOTOR
1年保証

商品仕様

モデル	DSH1120L2
最大切断枝径※2	25mm
本体寸法(長さ×幅×高さ)	272mm×65mm×99mm
質量※4	0.9kg
充電器	UBC1804L
電池パック	リチウムイオン電池 2,500mAh
電圧	DC10.8V
充電時間※5	80%充電(実用充電)※29分/満充電38分

付属品

- ・ブレード(標準刃) (本体取付) ・ブレード(可動刃) (本体取付)
- ・六角棒レンチ2.5mm ・六角棒レンチ4mm ・ボックススパナ14mm
- ・ホルスター ・オイル差し(オイル入り) ・電池パック(B-1125L)×2※3
- ・充電器(UBC1804L)※3

別販売品

替刃

商品名	コードNo.	価格(円)
可動刃	67300147	4,000
固定刃	67300157	4,000

刃物クリーナー (pH3.1アルカリ電解水 200ml)

商品名	コードNo.	価格(円)
刃物クリーナー	6990997	1,800

電池パック

品番	容量(mAh)	コードNo.	価格(円)
D-1115L	1,500	64000631	7,200
D-1125L	2,500	64000741	8,800

京セラインダストリアルツールズ株式会社
広島県福山市松浜町2-2-54 〒720-0802 ☎0570-666-787
www.kyocera-industrialtools.jp

ご使用前に「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。

- ◆仕様は改良などの理由により予告なく変更することがあります。
- ◆本カタログの掲載内容は取説と異なる場合があります。
- ◆カラー写真は実際の商品と色味が異なる場合があります。
- ◆記載価格はご参考価格です。消費税は含まれておりません。

このカタログの掲載内容は、2024年10月現在のものです。

KYOCERA ポータブル電源 DPS2400

電源の無い場所での 電気機器の使用に 高出力2.4kW & 急速充電

充電時間 **2時間**
大容量 **2,150.4Wh**
リン酸鉄リチウムイオン電池

充電しながら給電できる **パススルー充電**

停電時に安心 **EPS機能**

3Way 充電 AC100V/DC12V ソーラー(別販売品)

1年保証

ポータブル電源 DPS2400
希望小売価格 372,000円(税別) (669506A)

■ 持ち運びに便利な大型両手ハンドル
■ 暗い場所で役立つ大型 LED ライト

ひとを考えて、うまれたツール。

3Way 充電 豊富な入力、出力端子に対応

充電入力(背面)
①ACアダプター ②シガーソケット ③ソーラーパネル

スマートフォンをワイヤレス充電 ×2

DC12V出力シガーソケット ×1

交流出力 20Aコンセント ×6

交流出力 24Aコンセント ×1

USB Type-C出力 ×2

USB Type-A(急速) ×4

並列端子

■ バススルー充電対応
ポータブル電源を家庭用コンセントから充電しながら、その他の電化製品に給電できます。ポータブル電源を常に満充電に保て、コンセントが一つしかなくても、複数に給電が可能です。

■ EPS機能搭載
バススルー充電中に停電になった場合、給電がポータブル電源に自動的に切り替わり、中断のない電力供給を行います。(無停電電源としての使用は不可)

■ 並列運転に対応
並列接続ケーブル(別販売品)で2台のポータブル電源を接続、同時に稼働させることにより、出力電力・電池容量がアップします。

■ 使用回数・時間の目安※3

スマートフォン (11Wh)	ノートPC (60Wh)	小型冷蔵庫 (60W)
185回	32回	32-64時間

ブレンダー (500W)	コーヒーメーカー (1,000W)	ノンフライヤー (1,500W)
3.7時間	1.8時間	1.2時間

グラインダー	コンクリートハンマー (定格1,050W)	集じん機
約158分	約110分	約100分

商品仕様

モデル	DPS2400
充電タイプ	リン酸鉄リチウムイオン電池
電池容量	2,150.4Wh
定格出力	2,400W
入力	AC 2時間※1 / 最大1,200W
シガーソケット (充電)	23時間※1 / 12V 最大100W
ソーラーパネル	10V-150V 最大20A 最大1,200W
充電温度	0-40℃
AC※2	単相・交流 100V 50Hz/60Hz・20A(×6最大2,000W) 単相・交流 100V 50Hz/60Hz・24A(×1最大2,400W)
出力 DC(USB Type-C)	5V/9V/12V/15V/20V DC・5A(×2最大100W)
DC(USB Type-A兼用)	5V DC・2.5A 9V/12V DC・2A(×4最大24W)
DC(シガーソケット)	12V DC・10A(×1最大120W)
ワイヤレス充電	最大15W(×2)
使用可能温度	-10-40℃
本体寸法(長さ×幅×高さ)	445mm×290mm×315mm
質量	30.5kg

付属品

- ・AC充電ケーブル ・シガーソケット充電ケーブル ・収納ポーチ

別販売品

品名	コードNo.	価格(円)
ソーラーパネル	30700577	26,277
ソーラーパネル分岐ケーブル	30700637	13,135
ソーラーパネル延長ケーブル(3m)	30700617	6,000
並列接続ケーブル	30700587	2,400
シガーソケット充電ケーブル	34000090	2,600

※1 充電時間は、周囲の温度や電池の状態により変動します。
※2 アース付きの3ピンプラグを差し込むことができますが、本機ではアース線は接続されません。市販の「EPC」2ピン変換アダプターを使用し、アース線を接続することをおすすめします。
※3 周囲の温度や電池の状態により変動します。

■ 本体を保管する時は、低温や高温、高湿度の場所を避けて下さい。(5-35℃、湿度65%以下がおすすめです)
■ 使用後は、必ず充電して保管して下さい。長期保管する場合は0-80%の充電率にしてから保管されることをおすすめします。電池は自然放電するため、3か月1回、少なくとも6か月1回に1回は充電し、動作確認をして下さい。電池残量が20%以下になると性能が劣化したり、充電できなくなるおそれがあります。

京セラインダストリアルツールズ株式会社
広島県福山市松浜町2-2-54 〒720-0802 ☎0570-666-787
www.kyocera-industrialtools.jp

ご使用前に「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。

- ◆仕様は改良などの理由により予告なく変更することがあります。
- ◆本カタログの掲載内容は取説と異なる場合があります。
- ◆カラー写真は実際の商品と色味が異なる場合があります。
- ◆記載価格はご参考価格です。消費税は含まれておりません。

このカタログの掲載内容は、2024年10月現在のものです。

購買情報

東日興産

SAFE CARE

—安全な植物性洗浄液シリーズ—

～地球をきれいに安全にしております～
インフィニティ株式会社

- POINT 01 日射量が回復
- POINT 02 フィルム長持ち
- POINT 03 土壌環境に優しい

太陽光パネルにも使える!



ビニールハウスクリーナー

20ℓ×1本	¥36,000	¥39,600
5ℓ×4本	¥36,000	¥39,600
5ℓ×1本	¥9,000	¥9,900



土壌・作物への 安全性と洗浄力を両立

張り替えるより断然お得!

植物由来の成分で安全&強力!

アク・ヤニも簡単に取れる
農業用ハンドクリーナー



インフィニティ株式会社
アク・ヤニ取りハンドクリーナー

- 5ℓ詰め替え用 ●600mlフォームポンプ

強い洗浄力	手肌に優しい	植物性由来成分	生分解性 96.3%
-------	--------	---------	------------

- きめ細かい液で手肌を優しく包み込みます
- 手や顔についたアクやヤニなどの汚れ落としに
- 農業重機やハサミなどの工具にも
- 化粧品登録済み

【使用方法】

適量(ポンプ3回)を手に取り、両手なくもみ洗い、その後流水で洗い流して下さい。汚れがひどい時はお湯を使用すると効果的です。

- 摘果時に付着した野菜の灰汁



- 農業重機などの頑固な汚れ



- 器具の洗浄にも



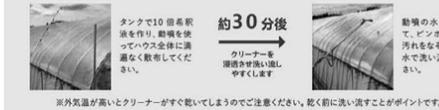
手や顔についたアクやヤニの汚れを落とすのに最適な洗浄剤です。肌を優しく包み込み、汚れを落とすのに効果的です。【アク・ヤニ取りハンドクリーナー】
頑固な汚れも簡単に落とすのに最適な洗浄剤です。肌を優しく包み込み、汚れを落とすのに効果的です。【アク・ヤニ取りハンドクリーナー】
【米・アスパラガスの農薬(100倍)】



準備するものは
ビニールハウスクリーナーと
水と動噴だけ
(長い柄のブラシがあると便利です)



1 動噴だけ洗浄する場合は10倍希釈(100ℓに対しクリーナー10ℓ)



2 ブラシで洗浄する場合は30～50倍希釈(100ℓに対しクリーナー2～3ℓ)



ハウス内も内側から洗浄可能です!

- 注意**
- 洗浄時期は春又は秋ごろがおすすめです。(外気温が高いとクリーナーがすぐ乾き、効果が下がります。)
 - 汚れの程度により希釈濃度を調整してください。(汚れの種類によっては落ちないものもございます。)



植物性多目的洗浄液

インフィニティ株式会社
SC-1000

- やし、トウモロコシ、大豆、紅花、サトウキビ、りんご等の植物を元にした原料を使用しています。

- ①代表的な食中毒菌(大腸菌・サルモネラ)の除去が可能
- ②油水分離する性質を生かし、分離された油を取り除くことで繰り返し使用が可能

特徴	①代表的な食中毒菌(大腸菌・サルモネラ)の除去が可能
特徴	②油水分離する性質を生かし、分離された油を取り除くことで繰り返し使用が可能
メリット	1 経済性
メリット	2 油水分離槽内の微生物の活性化へ(水質改善)

【事例】



洗浄機	洗浄機	洗浄機	洗浄機
経一普通用	高温タイプ	高温超濃縮タイプ	高温タイプ
0.1%～2%	1%	1%～5%	要相談
要相談	要相談	要相談	要相談
50%～80%	5%	要相談	要相談

東洋化学商会

SNOM スノム

新法情報提供システムNETISに取組んでいる商品です
震災復興・復興支援商品
油吸着剤スノム(SNOM)はNETIS登録商品として取組んでいます。
国土交通省



油問題を 解決する。

ゼロエミッション
植物性

バクテリアによる
分解力

水をはじく
撥水力

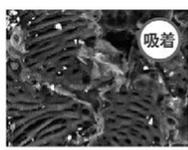
とっても早い
吸着力

再流出させない
保持力

一度吸着した油は再流出しません! スノムワイド(N)10kg

商品特徴

- 油に散布すると瞬時に吸着します。吸着量:自重の約2.2倍(軽油等)
- 油を吸うと色が黄色から茶褐色に変わり、吸着が一目でわかります。
- 水面で浮き、油だけを吸着し水を弾きます。
- 含有バクテリアが油を水と二酸化炭素に分解します。
- 一度吸着した油は再流出させません。
- 保持率:約95.5%(30分放置後)市販のマットは36.6%です。
- 天然の材料で作られ、人畜、植物に無害で金属への腐食性もない環境対応商品です。



※天然素材 ×1100倍
毛細管現象でカプセル構造の中へ油を閉じ込めます。

用途

- 陸上:路面、床面にこぼれた油を速やかに回収します。
- 水面:浄化槽、油水分離槽、側溝、河川・池、オイルフェンス内の油・油膜を回収します。
- 油を吸着すると茶褐色に変わりますので色が変わらなくなるまで適量撒いてください。
- 油を吸着して水を弾き、水面に概ね24時間浮いています。(フタなどで密封されていれば概ね1週間)
- 状況に応じて網等で回収します。回収した油はカプセル内に閉じ込められているので再流出しません。

使用後の処理

スノムは吸着した油を生分解できるため、生分解期間の放置が可能であれば、産業廃棄物としての処分量が軽減されます。(期間:約3ヶ月)
また、廃棄物に含まれる油分が5%以下であれば、事業系一般廃棄物として出すことができます。(地域の規制がある場合は、それに従ってください。)

商品形状及び吸着量(軽油換算)

スノムワイド(N)10kg(ダンボール):平均吸着量 約22kg※(※測定法:国土交通省型式承認測定基準より)

保管方法・安全性

製品は密封して冷暗所に保管
大気汚染防止法、水質汚濁防止法で規定する鉛、ヒ素、クロム、カドミウム、水銀等は使用していません。

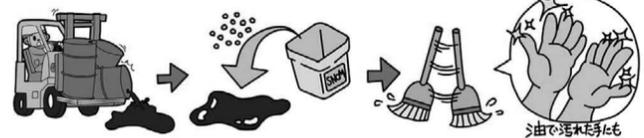
販売元

製造元 有限会社アセンティー 〒747-0825 山口県防府市新田246番地
http://www.asenthy.com

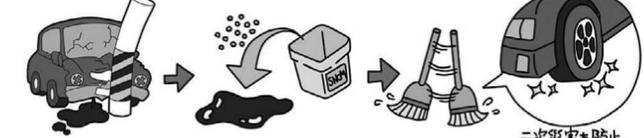
スノムの使用場面例

SNOM スノム は色々な場所で活躍します。

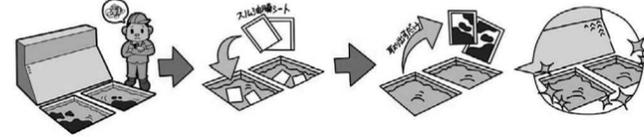
油漏れの
床面の



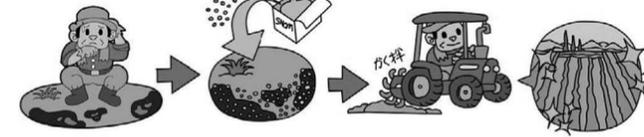
油漏れの
路面の



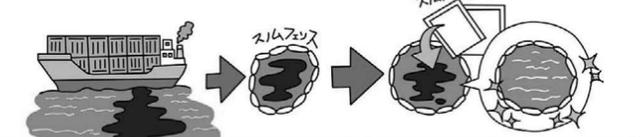
油処理
油水分離槽の



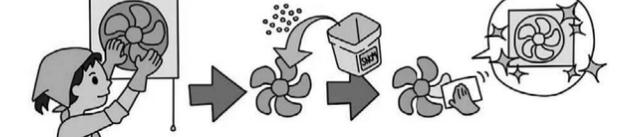
土壌浄化



油漏れの
水面の



油汚れた
頑固な



アセンティーは油問題を解決する会社です。

第15回島根県中古農業機械大展示会



島根県中古農業機械大展示会 会場の様子

島根県中古農業機械大展示会が11月8日、昨年同様、雲南市加茂

11月8日(金)に開催

第15回島根県中古農業機械大展示会 成約状況

	出展台数	成約台数	成約率
トラクタ	2024	16	8 50.0%
	2023	8	3 37.5%
コンバイン	2024	15	4 26.7%
	2023	17	6 35.3%
田植機	2024	11	8 72.7%
	2023	13	5 38.5%
管理機等	2024	19	12 63.2%
	2023	15	7 46.7%
ハーベスタ・バインダ	2024	1	1 100.0%
	2023	0	0
運搬車	2024	3	2 66.7%
	2023	2	2 100.0%
その他	2024	43	27 62.8%
	2023	51	21 41.2%
合計	2024	108	62 57.4%
	2023	106	44 41.5%
成約金額・前年比	2024	¥26,224,000	147.4%
	2023	¥17,796,000	61.9%

文化ホールラメール駐車場で開催された。ラジオでの広報効果もあり、多くの来場者で賑わいを見せた。昨年は

昼過ぎから雨足が強まり客足が途絶えたため、予定を繰り上げ13時で終了したが、今年度は天候に恵まれ、終了間際まで成約が続く盛況ぶりだった。

実績は、出展台数108台中成約台数は62台(成約率57.4%)、成約金額は2622.2万円(前年比147.4%)だった。出展台数は昨年(106台)とほぼ同数だったが、トラクタの出展数が倍増したことなどが奏功し、成約台数・成約台数率・成約金額率いずれも2日間開催だった一昨年を上回る結果となった。

三重県農業機械商業協同組合(代表理事 松田英明)は9月30日に臨時総会を開催し、農機組合の解散について諮り可決決定した。三重商組は昭和36年2月に設立され、設立と同時に全商連に加え、以来、農機組合の発展並びに三重県内の農業振興に寄与してきたが、63年の歴史に幕を下ろした。

短波

■展示会予定
▽11月21日(木) 福島商組資材展示会(福島市・アクティおろしまち)
▽12月4日(水) 栃木商組資材展示会(宇都宮市・マロニエプラザ)

福島商組第2回資材展示会 今年是一般客も対象!

11月21日開催



福島県農業機械商業協同組合は、11月21日に事務所近くにあるアクティおろしまちで第2回資材展示会を開催する。資材展示会は他の商組でも開催しているが、来場対象者がどこも組合員のみ。しかし、福島商組は今回、

組合員のお客様はじめ一般客にも開放する。まだ2回目の開催だが、早くも新たな試みにチャレンジする。資材展示会はマンネリ気味な面があるだけに、一般客も巻き込むことでのような展開になるか注目される。

「農閑期は安全研修を受けましょう!」 12月から2月は農作業安全研修実施強化期間です

YANMAR

「密苗」にして、よかった。

苗箱の枚数が少なくなり、運ぶ回数が減ったことが一番のメリット。培土の量、育苗ハウスの棟数も少なくてすむため、コスト削減につながった。オート田植機を導入し作業も効率化。農地を守るために、若い人に働いてもらえるような環境整備をしていき、おいしいお米をつくっていきたい。そのため密苗の面積を増やしていきたい。
岩手県 農業生産法人 有限会社鍋割川ユニオン 及川 光孝 様

2年間試して「これはいける」と確信。3年目に36haまで面積を増やし密苗田植機も購入。実際に苗箱を運ぶ妻は「枚数が減り、作業が楽になった」、田植機に乗る義理の息子は「苗継ぎの回数も減り、8時間作業しても疲れな」と喜んでいる。ゆくゆくは全面積を密苗だけでやりたい。
愛知県 専業農家 齋藤 茂晴 様

30aなら苗継ぎ無し、非常に効率的で楽。密苗の栽培方法は斬新で30代の従業員が喜んでいる。研究と工夫を重ね、地元農家と協力した結果「九州のお米食味コンクール」自治体部門で多良木町は3年連続優勝。これからは密苗を通じて未来の農業を担う若者を集める取り組みに注力したい。
熊本県 農事組合法人 多良木のひろ 深水 吉人 様

これまで10人で約半月かかっていた田植えが、3~4人で4日も早く作業を終えることができ、しかもポット苗からマット苗に変えたことで育苗箱数は1/4に。積算温度が低い地域であることに加え、春先の低温・強風で心配したが、小さな苗がしっかり生育して感動。低タンパクの良食味米が生産できました。
北海道 株式会社ノリエ 合田 正人 様

育苗箱の使用数が慣行で17枚/10aのところ、密苗に変えたことで10枚/10aに。育苗箱が減ると、ハウスのスペースが空しく、育苗箱の運搬、苗継ぎ、育苗洗などの手間が減ると全てがコストダウンにつながっている。生育・収量は慣行と変わらず、コスト換算で約2割削減ができた。密苗の面積を増やしていきたい。
新潟県 農事組合法人 小国西部生産組合 佐藤 正尚 様

一部業務を外部委託しながらも70haの全作付面積を5人で見られるのは密苗だからこそ。育苗箱数が10,000枚から5,000枚になったことで、4年間で約1,000万円のコストを削減。苗継ぎや苗運びなどに補助者が省力化を実感。これからもヤンマーさんのサポートのもと、営農拡大していきたい。
島根県 有限会社コスモ21 藤原 康正 様

稲作の低コスト化と省力化を実現する、ヤンマーの「密苗」。

規模や地域、品種に関係なく導入いただけるため、実施した日本全国の生産者から喜びの声が届いています。

今年もヤンマーは「密苗」をはじめとする高い技術力で、生産者の皆様を支えてまいります。

育苗箱数が最大 4,500枚 ▶ 1,500枚 **1/3**

播種・苗運搬時間が最大 195時間 ▶ 65時間 **1/3** 省力化

育苗資材費が最大 145万円 ▶ 67万円 **1/2** 低コスト

※水稲30a経営で、播種量は慣行100g/箱、密苗300g/箱として試算した場合。

